
日傘巡行

川崎ゆきお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

日傘巡行

【コード】

N5271N

【作者名】

川崎ゆきお

【あらすじ】

白い日傘に白っぽい着物のお婆さんが歩いている。

白い日傘に白っぽい着物のお婆さんが歩いている。背筋はしゃんと伸び、歩き方もスムーズだ。

三好は木陰でしゃがみこんでいる。たまには体を動かさなければと思い、散歩に出掛けたのだが、暑さにやられた。

炎天下にウォーキングなどやるものではないことをあらためて知った。

一度汗を出し切れれば楽になるかと思っただが、温泉のように沸き続け、止まる気配がない。このままではやばいと思いつやがみこんだのだ。

あのお婆さんのような日傘が欲しいところだが、三好は帽子もタオルも持つてきていない。

自宅で設計事務所を開いているが、知人の工務店が潰れ、仕事の大半が消えた。部屋にいても仕事がないので散歩に出た。

ずっと不健康な生活を続けていたためか太ってしまい、少し歩くだけでも息切れがした。

歩きながら将来のことでも考えようとしたのだが、将来より数秒先の体調が危険だった。

それにもう将来と呼ばれているその将来の年になっていた。どちらかと言えば余生を考えるべきだろう。

しかし今は座り込んで休憩することが先決で、それに専念している。

先程見た日傘のお婆さんがまた現れた。さっきは後ろ姿しか見ていなかったが、今度は真横からも見る事ができた。

汗ひとつかかず、軽い足取りで通り過ぎた。

三好は自販機で冷たいお茶でも買おうと決心するが、まだ下手に動かないほうがいいと思い、喉の渴きを我慢した。

しかし後で考えれば、あるとき無理をしても水分を補給してい

たほうがよかったのではないかと思うような状況になるかもしれない。

しかし立つ気が出ない。

しばらくぼんやりしていると、またあの日傘のお婆さんがやって来た。

三好は幻覚でも見ているような気がした。よく考えれば今時着物姿のお婆さんなどほとんど見ない。それだけでも珍しいのに、何度も前を通り過ぎるのは、もっと珍しく、それを通り越して妙だとも言える。

暑さでお婆さんが壊れたのかもしれない。いや、最初から壊れているのだ。三好はそう思いながら、遠ざかる白い日傘を見続けた。

日傘のお婆さんもウォーキング中で、決まった道筋を何周も回っているのかもしれない。

三好は頑張って立ち上がり、自販機を探すことにした。

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5271n/>

日傘巡行

2010年10月9日17時44分発行